



令和4年度決算の概要と事業報告

(3)貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在高を明示して、学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 令和5年3月31日

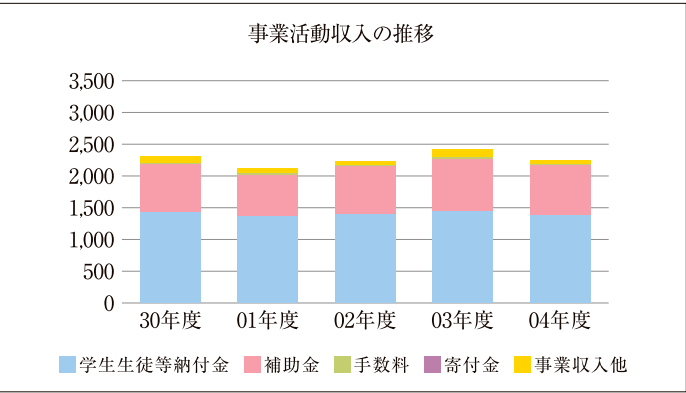
資産の部	(単位:百万円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,790	9,802	△ 12
有形固定資産	8,956	8,338	618
土地	1,023	1,023	0
建物	6,166	5,702	464
構築物	398	325	73
教育研究用機器備品	291	320	△ 29
管理用機器備品	150	48	102
図書	923	913	10
車両	5	8	△ 3
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	834	1,464	△ 630
有価証券	20	20	0
退職給与引当特定資産	300	300	0
減価償却引当特定資産	100	100	0
施設設備引当特定資産	226	826	△ 600
第3号基本金引当特定資産	177	176	1
施設設備寄附金引当特定資産	0	21	△ 21
流動資産	843	928	△ 85
現金預金	743	787	△ 44
未収入金	66	116	△ 50
有価証券	0	0	0
仮払金他	34	25	9
資産の部合計	10,633	10,730	△ 97

令和4年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は10,633百万円で、教育研究用機器備品の償却や現金預金、未収入金の減少により、前年度末と比べて97百万円減少しました。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,964百万円となり、前年度末と比べて306百万円増加しました。これは武蔵ヶ丘キャンパス改修工事に伴う、長期借入金の増加が主な要因です。

事業活動収支の推移

収入の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金	1,418	1,364	1,389	1,443	1,380
経常費等補助金	760	652	758	826	786
手数料	20	24	22	20	20
寄付金	4	8	3	2	2
付随事業収入＋雑収入	104	74	55	3	62
事業活動収入計	2,317	2,122	2,236	2,413	2,260
基本金組入額合計	△ 75	△ 525	△ 532	0	△ 554
支出の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費	1,500	1,448	1,473	1,560	1,532
教育研究経費	696	698	818	826	820
管理経費	224	168	186	208	299
教育活動外支出	0	0	2	4	6
特別支出	0	0	0	27	5
事業活動支出計	2,420	2,313	2,478	2,625	2,662
基本金取崩額	2	0	0	147	0



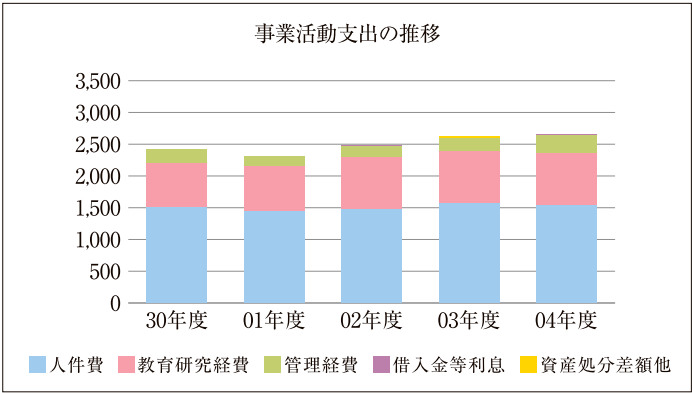
負債の部	(単位:百万円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,430	872	558
長期借入金	1,133	567	566
退職給与引当金	287	281	6
長期未払金	10	24	△ 14
流動負債	534	786	△ 252
短期借入金	33	233	△ 200
未払金	50	61	△ 11
前受金	410	450	△ 40
預り金	40	42	△ 2
災害損失引当金	0	0	0
負債の部合計	1,964	1,658	306
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	15,058	14,504	554
第3号基本金	177	176	1
第4号基本金	148	148	0
基本金の部合計	15,382	14,829	553
翌年度繰越収支差額	△ 6,713	△ 5,756	△ 957
繰越収支差額の部合計	△ 6,713	△ 5,756	△ 957
純資産の部合計	8,670	9,072	△ 402
負債及び純資産の部合計			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債及び純資産の部合計	10,633	10,730	△ 97

令和4年度末における固定負債(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動負債(現金預金・未収入金他)を合わせた負債の部合計は10,633百万円で、教育研究用機器備品の償却や現金預金、未収入金の減少により、前年度末と比べて97百万円減少しました。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,964百万円となり、前年度末と比べて306百万円増加しました。これは武蔵ヶ丘キャンパス改修工事に伴う、長期借入金の増加が主な要因です。

事業活動収支の推移

収入の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金	1,418	1,364	1,389	1,443	1,380
経常費等補助金	760	652	758	826	786
手数料	20	24	22	20	20
寄付金	4	8	3	2	2
付随事業収入＋雑収入	104	74	55	3	62
事業活動収入計	2,317	2,122	2,236	2,413	2,260
基本金組入額合計	△ 75	△ 525	△ 532	0	△ 554
支出の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費	1,500	1,448	1,473	1,560	1,532
教育研究経費	696	698	818	826	820
管理経費	224	168	186	208	299
教育活動外支出	0	0	2	4	6
特別支出	0	0	0	27	5
事業活動支出計	2,420	2,313	2,478	2,625	2,662
基本金取崩額	2	0	0	147	0



2. 事業の概要

学校法人 尚綱学園
(1)経営力の強化 ①令和4年8月に寄附行為を改正し、理事・監事・評議員の職務と責任の明確化を図り、適正な運用に努めた。 ②第二期中長期計画の策定を行い、令和5年4月からのスタートに備えた。 ③三様監査体制(監事・独立監査人・内部監査室)による監査機能の強化と内部統制の充実に取り組んだ。 ④常勤理事会を25回、事務部門会議を17回開催し、組織マネジメント機能の強化に取り組んだ。 ⑤令和4年10月～12月にホームページのリニューアルを行い、積極的な情報公開の促進に取り組んだ。 ⑥DXを活用した職場環境の改善に向け、DX推進委員会規程を制定し、DXの総合的かつ計画的な推進に取り組んだ。 ⑦地球環境に配慮した適切な業務運営を行うため、SDGs推進委員会規程を制定し、目標達成に向け組んだ。
(2)強固な財務基盤の構築 ①令和3年度決算確定後、中期財務計画の進捗状況、設置校別の収支状況を検証し、理事会・評議員会で報告するとともに、設置校別に決算説明会を開催し、現状認識の徹底を図った。 ②定員充足率向上の為の分析、企画立案、具体策の推進に取り組んだが、令和5年度の新入学生の実績は依然低調で改善には至らなかった。 ③収入の多様性を図るため、令和5年度より新しい寄附金制度を開始する準備を行った。
(3)人材育成の強化 ①公平性・公正性・納得性のある人事評価確立に向け、評価者訓練を行うとともに、面談・フィードバックの実施を徹底した。 ②全学的なFD・SDの内容充実、参加率の向上に取り組んだ。
(4)施設設備及び教育・研究環境の拡充 ①新学部設置に向け武蔵ヶ丘キャンパス4・5・6号館の改修工事に取り組み、令和5年3月に工事完了した。 ②九品寺キャンパス4号館第2調理実習室の改修工事を行った。
尚綱大学・尚綱大学短期大学部
(1)教育と学修の充実 ①学部学科毎に教員と学生の各代表による意見交換を行い、学生代表からの意見と改善策について教務連絡協議会で報告、全学で共有するとともに、今後の教育方法・教育体制等の点検・改善に役立てることとした。 ②全教員に配布する「シラバスの手引き」の大幅な見直しを行い、より学生の学修を促すためのシラバスを作成して、丁寧な履修指導に努めた。 ③令和6年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定申請に向けて、全学共通開講科目「数理・データサイエンス・AI入門」を令和5年度から開講することに決定、授業担当者によるシラバス作成をはじめ開講準備を進めた。 ④教員相互が授業参観するオープンクラス・ウィークを前期・後期各3週間実施し、体調不良による欠席1人を除き、全員が参加した。 ⑤学修支援センターにて基礎学力強化に向けた支援(補習授業)を行った。利用者数は理数系科目を中心に増加しており、受講した学生からの評価も高かった。
(2)学生の確保 ①令和5年4月に開設することも教育学部の選抜試験を、設置認可申請手続の關係上、年明けに実施し、20人が入学することとなった。 ②令和5年度入試から一般選抜を従来の2回から3回に増やし、小論文型の総合問題を取り入れ、学力の3要素を多面的・総合的に評価できる選抜方法を導入した。また、生活科学部において総合型選抜を導入し、早期の入学者確保に取り組んだ。 ③オープンキャンパスを事前予約制で人数を制限した上で例年より早い5月から計5日開催し、参加者に大変好評であったが、高校生の参加者数は前年度より15%ほど減少した。 ④オンライン個別相談、学校紹介動画の作成・配信、SNSを活用した広報など、DXを活用した広報活動に取り組んだ。
(3)学修環境の整備 ①ことも教育学部開設に伴い、武蔵ヶ丘キャンパス大学4号館にエレベーターを設置し、4号館と5号館に渡り廊下を配置するなどの工事でバリアフリー対策を行い、併せて各号館建物内部やトイレ、洗面所の改修、多目的トイレの新設を行った。 ②武蔵ヶ丘キャンパスにおいて老朽化したロッカー室2か所を利便性の高い場所に移設し、ロッカーの更新も行った。また、講義室、調理実習教室及び図書館など劣化した照明器具をLED化し、WiFi環境の拡充を行った。 ③九品寺キャンパスにおいて大学4号館第二調理実習室の改修工事を行い、併せて師範用モニター等を新設した。 ④学生及び教職員が参加し、10月に火災を想定した避難訓練、さらに11月に地震を想定したシェイクアウト訓練を行った。また、教職員に対する防犯・救急措置法などの講習実施として、3月に専門機関による一次救命措置に係る講習会(実技)を行った。
(4)学生支援の充実 ①中途退学を訴える学生に対し、担任を中心に個別相談に応じたのち、相談内容に即して、本人及び保護者を含めた話し合いと指導を適宜実施した。 ②必修科目の出席状況を学科教員が共有し、欠席が連続する場合には担任が学生に連絡を取り、必要に応じて個別面談を実施した。出席状況や授業態度等により支援が必要と思われる学生については、義読教諭、臨床心理士、ソーシャルワーカーと連携し、情報共有を行い、具体的な支援策を検討、実施した。 ③両キャンパスにおける大学と短大の学生会の統合、新サークルの設立、コロナ禍の中の高綱祭など学生の自主的イベントの開催などを支援した。 ④学科に応じた「就職・進路指導」計画を実施し、全学科が就職率100%を達成した。
(5)研究力の強化 ①尚綱子育て研究センター主催「乳幼児保育研究会」、尚綱食育研究センター主催「乳幼児食育研究会」などの研究会を年間数回開催し大学の知的資源を還元した。 ②尚綱食育研究センター・尚綱子育て研究センターを中心に「第4回尚綱食育推進シンポジウム」を開催し、100人を超える参加者があった。 ③新規に5件の科学研究費が採択され、さらに大分大学との共同研究や一般社団法人ミルクからの受託研究、日本酪農研究所からの競争的資金による研究が開始された。 ④共同実験室の整備として、高感度化学発光・蛍光撮影装置の設置、並びにオートクレーブ、ファイス実体顕微鏡システム、フリーザー付き薬用保冷庫などの機器類を更新した。
(6)社会連携の拡充 ①尚綱子育て研究センターでは、保育の質向上及び保育者の早期離職予防としての相談支援である交流会「保育Café」、地域の子育て支援・相談に関する交流会「子育てCafé」を毎月開催し、大学の教育環境や専門知識を活かした貢献を行った。 ②尚綱食育研究センターでは、熊本市子ども食育ネットワーク会議への参加協力、菊陽町広報誌へ学生の開発レシピへの掲載等を行い、また、湯前町と連携し、低アミロース米(びかまる)のレシピ開発を行った。 ③熊本県との共同事業である「くまモン学フォーラム」について、令和5年2月18日に開催し、全国から550人が参加した。
(7)国際交流の体制整備と拡充 ①ハワイ大学マノア校と「協力と交流に関する覚書」を締結するとともに、「海外留学奨学金規程」を改定し、北米、オセアニア、欧州への短期語学留学の支給額を2万円から5万円に増額した。 ②海外との交換留学を再開、本学より韓国の仁徳大学校へ3人、済州大学校へ2人、台湾の慈济大学へ1人、高雄大学へ1人を派遣し、中国から2名を受け入れた。また、本学園独自の奨学金を利用して、慈济大学へ7人、高雄大学へ1人がオンライン留学した。
(8)IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応 ①令和4年度自己点検・評価報告書、並びに外部評価報告書をホームページで公表した。 ②内部質保証に関する基本方針及び規程並びに内部質保証委員会規程を制定し、内部質保証システム体制を整備した。
尚綱中学・高等学校
(1)特色ある教育の確立 ①グローバル教育の充実として、留学生を含めて英語でのビブリオバトルスピーチ大会を実施した。また、オンライン留学には8名が参加した。9月から留学生の受け入れを再開し、タイより長期留学生を受け入れた。 ②1学年は職業理解と探究活動として、マイナビlocusを導入し、企業訪問を実施した。 ③2学年は礼法教育研修として、CA育成校(インターナショナルエアアカデミー)での研修を実施した。 ④成績上位生徒へのDXを活用した個別添削指導や低学力生徒への個別指導を長期休業中等に実施した。 ⑤大学の各学部学科と日常的な情報交換及び連携事業の充実に取り組んだ。
(2)教育の質向上 ①教科の枠を超えて、ICTを活用した研究授業、授業研究、研修に取り組んだ。 ②総合的な探究の時間の内容の充実を図るため、キャリアパスポートとのリンクに取り組んだが、まだ実質的な運用までは至らなかった。 ③主権者教育、消費者教育等の充実に向けて、進路学習を中心に計画的に取り組んだ。
(3)生徒支援の確立 ①体育祭や文化発表会等の学校行事は、生徒の意見を積極的に取り入れながら、時間制限や規模縮小、入場制限の措置を講じて実施した。 ②生徒理解と適切な進路指導を行うため、1学期に全校一斉の2者・3者面談を実施した。 ③入寮生徒について、担当教員による寮訪問とカウンセラーによる面談を実施し、クラス担任、部活動顧問及び保護者との連携強化に取り組んだ。
(4)地域貢献の充実 ①食物愛好会がフードバンクのボランティアに参加した他、生徒会が呼びかけ、ユニクロが公募した「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加した。また、3年ぶりに開催された熊本城マラソン事務局から、過去10大会連続でボランティアに参加した団体として感謝状を頂いた。 ②学校主催の英語暗唱大会に初めて中学の部を盛り込み開催し、好評を得た。
(5)学習意欲あふれる生徒の確保 ①入試アドバイザーを中心に生徒数、受験実績等を参考に訪問先を検討し訪問を実施した。 ②新型コロナウイルス感染症の感染防止に十分配慮した上でオープンスクールやサタデーツアー、ナイト説明会などを実施した。
(6)学校評価 ①学校評価を3学期に実施し、その結果を全職員で共有した。
尚綱大学附属こども園
(1)教育・保育内容の改革と尚綱らしさの追求 ①園全体の環境を活用し、「全体的な計画」「2週間の計画」等とともに、園児の発達や興味関心、季節等を配慮して、教育・保育を計画的かつクリエイティブに実践した。 ②特別な支援を必要とする園児の増加に対応して、教職員間の情報交換や専門機関と連携し、特性を理解し寄り添い、安全な安定した生活を見守りながら実践した。 ③食育推進プロジェクトチームと「囃む」ことを通して、講演会や便りの発行、アンケートの実施、シンポジウムでの発表等、大学・短大と連携して実践研究を行った。
(2)園児の確保 ①入園優先枠を拡大し、1号3歳児の確保を図ったが、定員には達しなかった。また、満3歳児受入人数を12名から18名に増やした。 ②HPを通して本園の良さや保護者の喜びにつながる情報の提供を年間140件以上行なった。
(3)子育て支援の充実 ①コロナ感染症の拡大状況をみながら、教育講演会、子育て相談会等を計画的に実施し、保護者のニーズに対応し、困り感に寄り添った支援を行った。 ②子育て支援室とどんぐりルームでのイベント実施、随時子育て相談、情報提供等を行った。
(4)教育・保育の指導力向上 ①「実践と研修を通した尚綱らしい教育・保育の追求、及び園児への援助・配慮と子育て支援」と研修テーマを設定し、研究保育と保育研究会を実施した。 ②県・市・町及び全幼研、全保研等が主催する幼児教育、特別支援教育、実技研等の研修会へ参加した。 ③幼児教育学科教員と本園教員との連携協力による実習生の教育・保育力の向上に尽力した。
(5)地域連携の拡充 ①地域老人会と例年新春の集い、美化活動を通しての交流を実施していたが、コロナ禍のためでなかった。祖父母母との交流は「新春の集い」は規模縮小して行ったが「夏の夜の森の探検」は中止した。 ②近隣の中学校区で「幼・保・小、中連携推進協議会」の事業を行い「学びのマップ」づくりを行った。就学先小学校との連絡会は、最低限の事務連絡実施にとどまった。
(6)学校評価の充実と活用 ①教職員による「目標達成度評価」の記入と面談、及び「学校自己評価」を行い公表した。